

大ケヤキの中央道から 季節の花咲く四季の道へ

● 鈴鹿市西条く神戸



5. 神戸公園近くで見つけた根性木。人間が少々ヘマをやらかしても、木は逞しい生命力を見せる。
6. パナソニックの香りを放つカラタネオガタマの。
7. 途中で立ち寄った石黒さんが現在治療中のヤブツバキ。倒れそうな根に接ぎ木して、樹勢を回復する計画だ。



1. 車に怯えることなく歩ける四季の道。整備した鈴鹿市に拍手を送りたい。
2. 偶然出会った伊藤千佳子さんは樹木医を目指して勉強中。県内初の女性合格者誕生なるか。
3. 大きく育った中央道路のケヤキ並木。横方向のボリュームがないのが少し残念。
4. 木槌一本で木の空洞を探す石黒さん。

ナナの甘い香りに包まれたと思つたら、カラタネオガタマの小さな花から立ち上るものだった。普段は気にもとめない街角で、木々は季節の移ろいを告げていた。

街路樹は人の心を映す鏡

通り雨をやり過ごす藤棚の下で、樹木医の仕事について伺った。石黒さんが樹木医となったのは2年前。実は本職の営業のために目指した資格だったという。ところが超難関の試験を突破して、いざ樹木医となると、それまで商品

「このケヤキ並木が、鈴鹿市内に古くからある街路樹だと思えますよ」

鈴鹿市中心部を横断する中央道路の西端。樹木医・石黒秀明さん(39)は、大きなケヤキを観察しながらそう言った。これまで車で何度となく通った道だが、こんなに大きな木がある印象はなかった。どの木も沢山の葉を繁らせており、木陰は適度に涼しい。石黒さんは一枚をちぎって差し出した。

「毛虫の卵です。街中の街路樹にはどうしても虫が付きます。しかしこれは何の卵かな」

鞆からルーペとデジカメを取り出して記録する。こうして現場で獲得する知識が何より大事なのだという。仰ぎ見たケヤキは上に上にと伸びていて、横のボリュームが無い。「少し枝を伐り過ぎかもしれませんが。落ち葉などが迷惑だという近隣住民の苦情もありますから、行政としては剪定するしかないでしょう。でもここまで伐らなくても良い気がしますね」

頭上の枝で小鳥が休んでいる。この太いケヤキが大きくと見ていた木を「患者」として見るようになった。「街路樹は人の手によって植えられたものですから、その存在が社会の不利益になるようではいけません。しかし今の街路樹管理は、人間の都合だけで行われているように感じることがあります。せつかく街の美観のために植えられているのですから、もう少し美しい関係でありたいですね」

街角に物言わず立つ木々には、そこに住む人の心が、合わせ鏡のように映し出されているのかも知れない。

樹木医の役目は木と人間の橋渡し 口を利かない患者ですから



石黒秀明 ● いしぐるひであき
昭和43年鈴鹿市生まれ。有限会社石黒植物園代表取締役。平成17年に37歳で樹木医となる。日本松保護士会の松保護士の資格も持つ。空手黒帯、鈴鹿市消防団石薬師分団団長も務める。

枝を伸ばしたら、中央道路は緑に溢れるだろう。堂々と枝を張ったその姿を、一度見てみたいと思った。

四季の花が咲く遊歩道

中央道路と平行するように、西条から神戸公園まで伸びる四季の道。四季折々に花や実を付ける木々が植えられており、樹木医さんと歩くにはうつつの散策路だ。

「今日のために、先日下見をしたんですが、ここには70種類以上の樹木が植えられています。私も地元の良いところを再発見した気持ちです」

石黒さんの本職は樹木の生産・卸。これはサルスベリ、あれはヤブツバキと、木を見分ける目は折り紙付きだ。苔むしたケヤキの木肌に感心していたら、

「それは木の成長が止まっている印ですから、あまり喜ばしいことではないですよ」と教えていただいた。

歩行者専用の道であるせいか、先ほどの中央道路よりも木が自由に枝を伸ばしているように見える。急に辺りがバ



NAGI-29 夏号 発売中
手から生まれる
草木染の手織り紬(美杉)
地元材で家づくり
土間が中心にある津の家
手漕ぎ隊が行く
南伊勢の海蝕洞めぐり

定価670円(税込)

<http://www.i-nagi.com>



三重で撮影された映画の風景を歩く

特集 **ロケ地巡礼**